

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|--------|--------------------------|
| C-141 | 17-052 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名（原題／訳） | | |
| <p style="text-align: center;">Effect of a brief intervention for alcohol and illicit drug use on trauma recidivism in a cohort of trauma patients.</p> <p style="text-align: center;">精神的外傷者コホートにおける飲酒および薬物乱用を対象とする短時間介入の精神的外傷の常習性への効果</p> | | |
| 執筆者 | | |
| <p style="text-align: center;">Cordovilla-Guardia S, Fernández-Mondéjar E, Vilar-López R, Navas JF, Portillo-Santamaría M, Rico-Martín S, Lardelli-Claret P.</p> | | |
| 掲載誌 | | |
| <p style="text-align: center;">PLoS One. 2017 Aug 16;12(8):e0182441. doi: 10.1371/journal.pone.0182441.</p> | | |
| キーワード | | PMID |
| <p style="text-align: center;">保健指導、飲酒、薬物乱用、精神的外傷</p> | | 28813444 |
| 要 旨 | | |
| <p>目的： 過剰飲酒、薬物乱用による入院患者に対して、短時間の保健指導による介入を行い、精神的外傷の常習性の減少に対する効果を検証することである。</p> <p>方法： 1,818 名の患者登録情報を基にした多地域にわたる動的コホート（MOTIVA project）において、過剰飲酒または薬物乱用による入院患者を対象として後ろ向き研究を計画した。対象者を過剰飲酒または薬物乱用スクリーニング陰性および陽性群と大別し、陽性群については短時間保健指導実施および未実施群に区分し、合計 3 つのサブコホートとした。対象者の追跡期間は 10-52 か月であった。対象者選定後、精神的外傷のない生存時間、調整済みハザード比（aHRR）、調整済み常習化発生率比（aIRR）および常習化に対する平均因果効果（CACE）を算出した。</p> <p>結果： いずれのスクリーニング陽性群においても、精神的外傷の常習化累積発生率は増加した。また、短時間保健指導実施群では、未実施群を対照とした場合、aHRR（95%信頼区間）は 0.63（0.41-0.95）であった。CACE 解析では短時間保健指導実施群において、精神的外傷の常習化が 52%減少すると推計された。</p> <p>結論： 過剰飲酒、薬物乱用による入院患者に対して、短時間保健指導の実施は、精神的外傷の常習化を半減させた。</p> | | |